



〈プリントオペレーター〉

大田 雄一
おおた ゆういち

〔座右の銘〕

継続は力なり

Q2

木箱を組み立てるための
機械もあるそうですね

A 製造工程の中でも、特に熟練の技を必要とする組立工程を自動化できる機械があるんです。印刷工程同様、作業者を選ばないので、作業効率と品質が大いに向上しました。

Q3

これから
取り組んでみたいことは？

A この機械のおかげでフルカラー印刷や写真プリントなどさまざまなことができるようになりました。この技術を活かして当社だからこそできる化粧木箱作りに挑んでいきたいですね。

Case 19

木材・木製品製造業

株式会社 BAKTI (バクティ)

〒886-0006 宮崎県小林市北西方3078 TEL 0984-27-2036



Q1

この機械を導入して
作業は変わりましたか？

A 一人で、しかも熟練、若手を問わず誰でも印刷をできるようになったことが大きいですね。新たな職種に取り組めることが、みんなのやる気につながっています。

新 たに導入したインクジェットプリンタにより、1日2000枚が限度だった印刷枚数は、8000枚以上と作業効率が飛躍的に向上。それまで難しかった精細な写真などの表現も、紙に印刷するのと変わらない品質でできるようになりました。

「短納期で高品質の商品をお届けできるようになっただけでなく、作業環境も格段に良くなったんです。スクリーン印刷後の清掃に使っていたシ



ンナーを使用しなくても済みまし、インキや版下の保管場所も必要なくなりました。この機械は、当社に革命をもたらしてくれたと言っても過言ではないんですよ」

現場に革新をもたらしてくれました

工場の一角に設置された、およそ3メートル四方の大型インクジェットプリンタ。オペレーターがスタートボタンを押すと、ものの数分で60個分の木箱への同時印刷が完了します。印刷の仕組みは、家庭用インクジェットプリンタとまったく同様なのだそうです。

「この機械が導入されるまではスクリーン印刷という手法で行っていたのですが、三人がかりで、しかも1枚1枚手作業で印刷していたので、作業効率が悪かったです。仕上がりに関しても、熟練工が作業に当たってはいたものの、人手による作業なのでどうしてもばらつきがありました」

そのような状況の中、小ロット・短納期・フルカラー印刷と、顧客のニーズは多様化していきます。

「スクリーン印刷では、2色なら2回、3色ならば3回印刷

株式会社 BAKTI

印刷手法の転換で 顧客からの あらゆるニーズに応える

そうめんやお酒などの化粧木箱を製造する同社。板面への印刷は職人技が必要なため、大量・短納期の発注への対応が難しかったのですが、インクジェット印刷機導入で、この難局を打開しました。

ものづくり補助金活用 ここがポイント



高性能インクジェットプリンタで
品質も作業効率も向上

それまで三人で行っていた印刷を、一人で、しかも、従来の4倍の早さでできる上、フルカラーや写真印刷など、顧客からのあらゆるニーズに応えられるようになりました。

機に通さなければならず、仕上げまでに時間が掛かってしまします。さらに、技術のある人しか作業ができないので、短時間で質の高い品を求められるお客様のリクエストに応えるのが難しくなっていました。そこで、高性能、高品質のデジタルプリンターへの転換が必要だと考えました」

木材にフルカラーで写真プリント。凹凸がなければほとんどの素材にプリントできます。

